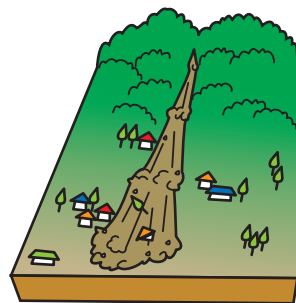




土砂災害

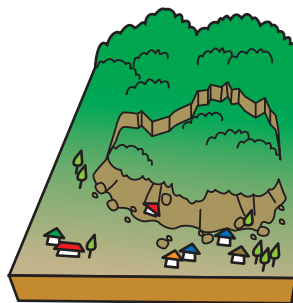
水と緑豊かな溪流の四季の美しさも、その景観ゆえ、災害を引き起こすことがあります。

1 土石流



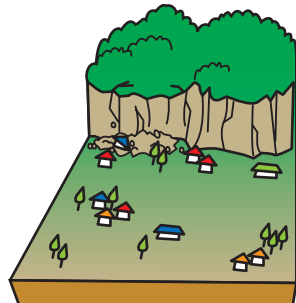
川底や斜面にたまった土・岩などが、集中豪雨による水の力で一気に流れ出してくるのが土石流です。勾配によって、下流にいくほど規模が大きくなる場合があります。扇状地は、土地自体が山から運ばれてきた土砂が堆積してできたものなので、注意が必要です。川が急に濁り出したり、流木などが混じり始めたら、それが避難のサイン。

2 地すべり



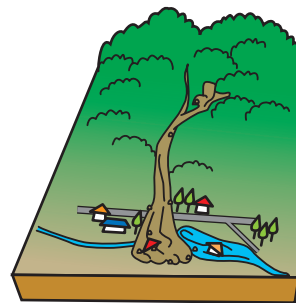
緩やかな斜面で起こります。地中の粘土層などが地下水の影響で、ゆっくりと滑り出す現象です。一度に広い範囲が動くため、ひとたび発生すると住宅、道路、鉄道、田畑などに大きな被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水を引き起こすことがあります。斜面に段差が生じたり、樹林・電柱・墓石などが傾くのが兆候。

3 崖崩れ



地面に染み込んだ水分により、弱くなった斜面が崩れ落ちるのが崖崩れです。突発的に起こり瞬時に崩れ落ちるので、逃げ遅れる人が多いのが特徴。樹木の極端に少ない土地や丘陵を切り崩して造られた造成地は、地盤が緩み崩れる危険があります。地震をきっかけに起こることも。

4 河川への土砂流出

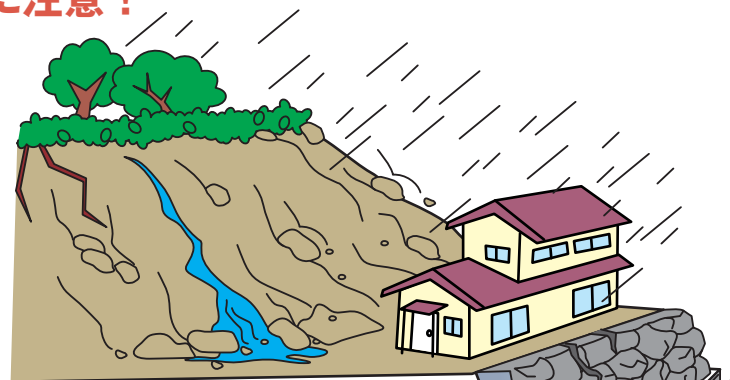


長雨や大雨による山腹斜面の浸食、土石流、地すべりなどにより河川に流出した土砂が、川床を上昇させて洪水など氾濫を起こします。また、大きな橋が流されて重要な交通網が寸断されるなど、広域的な災害を引き起こします。かつて河川だった土地は、洪水によって水が流れ込む可能性があります。

崖・よう壁に注意！

危ない崖とは

- ・勾配が30度以上ある
- ・浮石がある
- ・斜面に亀裂がある
- ・湧き水がある
- ・雨が集中して流れるところがある
- ・張り出している
- ・崖の縁に大木がある

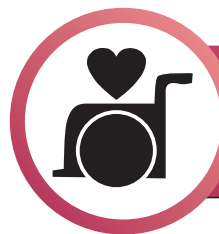


危ないときとは

- ・長雨のあと強い雨が降り始めた
- ・地鳴りが聞こえる
- ・山の斜面を水が走り始めた
- ・小石が転がり落ちてきた
- ・湧き水の量が一定でなくなり、濁ってきた

危ないよう壁とは

- ・時期をずらし、継ぎ足して造られた
- ・盛土をした地盤の中に立っている
- ・亀裂が入ったり、変形してきている
- ・水抜き穴が少なかったり、詰まったりしている
- ・下に雨水がたまったり、ぬかるんでいたりする
- ・崖の上にも水がたまったり、流れ込んだりしている
- ・よう壁の裏側に、補強用の石が埋められていない
- ・側溝に砂石や枯葉等が詰まっている



障害者・高齢者のために

災害時には、手助けが必要な方は遠慮せずに協力を求め、周囲の人はすすんで手助けをしましょう。

	日ごろの備え	災害時の行動	介護者へ
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ◇火の始末ができていない人は、石油やガスよりも、なるべく電気を利用する。 ◇常備薬や補装具などは、すぐに持ち出せる場所に置く。 ◇安全に避難できる道路を確認する。 ◇家具等は転倒防止対策をし、高いところに重たいものや壊れものなどを置かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇家具から離れ、机の下などにもぐる。 ◇無理な行動はせず、周囲に助けを求めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇災害発生時の役割分担や避難方法など、援助体制を整えておく。 ◇車椅子が使えない場合のために、背負い紐などを用意する。 ◇家具などの転倒防止策の手助けをする。
目の不自由な方	<ul style="list-style-type: none"> ◇常に白杖を手の届くところに置く。 ◇家具の配置などを知っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇大声を出す、笛を吹くなどして、周囲の人に居場所を知らせ、誘導をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇階段などの障害物を説明しながら誘導する。
耳、言語の不自由な方	<ul style="list-style-type: none"> ◇常に筆記用具を携帯する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇メモなどで、正確な情報を周囲の人に聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇身振りや筆談などで、正確な情報を伝える。 ◇話すときは口を大きく動かし、相手にはっきりとわかりやすく伝える。
知的障害のある方	<ul style="list-style-type: none"> ◇日ごろから災害時の行動を話して聞かせ、外出時での危険な場所も教えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇常に家族の人と行動する。もしもできない場合は、近所の人などに助けを求めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇あわてたりしないように優しい声で指示し、手を取って避難行動を促す。
肢体の不自由な方	<ul style="list-style-type: none"> ◇室内スペースを広めに確保しておく。家具などに転倒防止対策をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇あわてて行動せず、無理はしないこと。 ◇車椅子は安全な場所に止め、周囲に助けを求めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇階段での介助には2人以上が必要。 ◇介護者が1人の場合は背負って避難する。
内部障害のある方	<ul style="list-style-type: none"> ◇人工透析や糖尿病などの通院治療をしている方は、常備薬の備えや災害時の対応などを、医療機関に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇かかりつけの医療機関の状況を確認し、急ぐ治療の必要がある場合は、最寄りの医療機関か、防災関係者に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇かかりつけの医療機関、救護所などの情報収集を手助けする。
高齢者や寝たきりの方	<ul style="list-style-type: none"> ◇室内はなるべく広くし、転倒防止対策や落下する可能性のあるものはチェックしておく。 ◇避難時に必要な道具は、常に使えるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇あわてて外へ飛び出さず、安全な場所へ移動し助けを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇緊急時や困ったときの連絡先を覚えておく。 ◇複数の介助者で対応し、緊急のときは背負って避難する。

